桜山瓦窯跡　東松山市　所在

「はにわの丘」とある

自転車禁止

6世紀中から6世紀末頃の遺跡とされ、須恵器窯2基、埴輪窯17基、住居跡3軒等が検出されているという

赤:埴輪窯跡/青:須恵器窯跡/黒:住居跡/緑:土壙跡

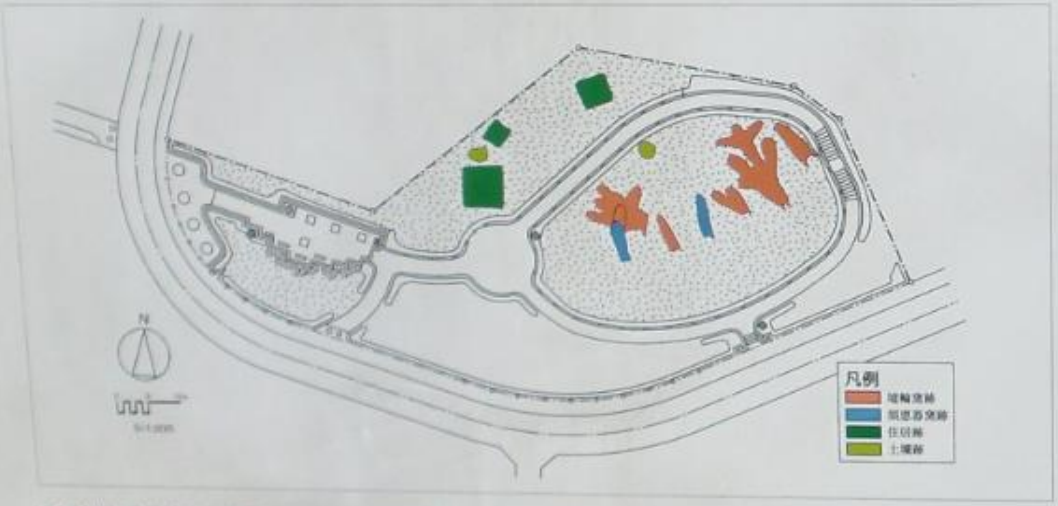
市指定史跡「桜山窯跡群」

昭和62年4月1日指定

桜山窯跡群は、南比企丘陵の物見山（標高 135m）から南東に延びる尾根の東端斜面に立地しています。

昭和55年の発掘調査によって、この窯跡群では、須恵器と呼ばれる青灰色の高温度（約1200度）で焼かれた硬い焼き物及び、古墳に並べて祭るために使用された人物・馬形埴輪・円筒埴輪などを製作した遺跡であることがわかりました。

今から約1450年前（古墳時代後期）につくられた須恵器の窯跡2基、埴輪の窯跡17基、住居跡が3軒発見され地域の大きな話題になりました。県内で発掘された須恵器窯としては最古に属するものであり、埴輪窯跡と共に古代の窯業生産と製品の流通を知る上で貴重な遺跡であることから、遺跡公園として整備・保存して後世に伝えることになりました。



須恵器の窯跡は、斜面に沿って地面を船底状に長さ7m、幅1.5～1.8m、深さ1mほど堀りくぼめて、その上に天井部を掛ける半地下式の登り窯です。窯の低い方に焚き口、高い方に煙り出し（煙道）を設けて、カマボコ型に天井部がつくられました。窯跡の全体が高温のため硬く焼き締まっていま

した。埴輪の窯跡は、全長4～5m、幅1～1.5m、深さ1.2m程で須恵器窯に比べてやや規模が小さく、埴輪を焼く温度（約800度）も低いことが特徴です。須恵器窯のように一基ずつ単独のものもありますが、一度壊した窯のくぼみを再利用して連続的に埴輪を焼くため、手のひらを広げたように窯跡が残りました。
埴輪は多量に生産されました。

住居跡は窯跡群より一段高い平坦地で北西側に位置し、一辺3～5.8m、深さ0.3m程の方形で、煮炊きや暖をとるカマドが設けられています。埴輪づくり職人の工房跡とみられ、材料となる粘土や道具を保管していたとみられます

7号窯跡埴輪出土状況

5号窯跡人物埴輪出土状況

写真提供
埼玉県立埋蔵文化財センター

埴輪の供給先は、坂戸市北峰古墳群・東松山市附川古墳群などの周辺部を中心に、やや離れた吉見町（三ノ耕地遺跡）などの古墳群に供給されました。須恵器は東松山市周辺の遺跡から出土しています。出土遺物は、県立埋蔵文化財センター（大里村）に収蔵・保管されています。

平成14年3月　東松山市教育委員会

前方は住居跡

住 居 跡

土壙跡が植栽で表示されている

埴輪窯跡が植栽で表示されている

はにわ窯跡

須恵器窯跡もこの中に植栽で表示されている

須恵器窯跡

左手は調査隊の車

参考ホームページ

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/34_mtym/sakura.html

http://blog.goo.ne.jp/daidi/e/c4df66e3341e0552408585ef70ab131b

桜山小
桜山台
毛塚
宮鼻
6
5
31
34
42
46
54
79
82
85
4
9
11
717-4
747
744
702
759
772-2
775-2
766-2
695-2